

令和6年第1回SDGs専門部会

議事概要

日時：令和7年1月30日 15:00～17:00

場所：那覇商工会議所2階ホール（ハイブリッド開催）

出席者：

人間部会……大城 千尋委員、島袋 恒男委員、野入 直美委員

繁栄部会……喜屋武 裕江委員、栩野 浩委員、内間 康貴委員、高良 絹子委員、羽賀 史浩委員

地球部会……小野 尋子委員、北橋 義明委員、立田 亜由美委員

平和部会……石垣 皓次委員、岩村 俊平委員、村上 尚子委員

パートナーシップ部会……倉科 和子委員、首里のすけ委員、金城 徹委員、長濱 京子委員、
奥山 有希委員、平田 大一委員

事務局（沖縄県）……企画調整課SDGs推進室 新垣室長、川武主幹、金城主任

以下、議事概要

【事務局】

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

定刻となりましたので、「令和6年度 沖縄県SDGs 専門部会」を開催させていただきます。今年度は5部会ある専門部会を合同の開催とし、対面とオンラインによるハイブリッド開催とさせていただきます。

はじめに、配布資料の確認をいたします。本日の配布資料は、

- ・（資料1）令和6年度第1回SDGs専門部会 会議資料
- ・（資料2）モニタリング報告書（素案）
- ・（資料3）国連SDGs報告書2023（概要）
- ・（追加資料）各委員からのご意見（事前意見照会結果）
- ・小野委員からの提供資料 2部
- ・その他、委員名簿、出席状況、委員配席図

となっております。

ここで、オンラインでご参加の委員の方に、会議中のご発言につきまして、いくつかご協力をお願いします。

発言を希望される場合は、恐れ入りますが「お名前」を述べていただき、発言がある旨を発声いただくか、チャット機能を使用し、「発言がある」旨をお伝えいただきますようお願いいたします。

あわせて、ハウリングや雑音混入防止のため、発言時以外はマイクをミュート（OFF）にしていただきますよう、お願いいたします。

音声繋がらなくなった場合などにも、チャット機能がご利用いただけますので、必要があればそちらもご活用いただければと思います。

また、ご来場いただいております委員の皆様は、オンライン環境設定の都合上、ご発言の際はマイクをご利用ください。机上のマイクをご利用いただくか、必要に応じて事務局からお渡ししますので、御協力をお願い致します。

本日は、対面で12名 オンラインで9名 合計21名の委員の皆様にご参加いただいております。

時間も限られておりますので、お名前のみのご紹介とし、委員のご所属先、ご役職名は省略させてい

たきます。詳細につきましては名簿をご参照ください。お名前を呼ばれましたら、軽くご一礼いただく等合図をしていただければと存じます。

それでは、会場にいらっしゃる委員からご紹介させていただきます。

<人間部会>

- ・大城 千尋（おおしろ ちひろ）委員、でございます。

<繁栄部会>

- ・喜屋武 裕江（きやん ひろえ）委員、
- ・栩野 浩（とちの ひろし）委員で、でございます。

<地球部会>

- ・赤嶺 太介（あかみね だいすけ）委員は本日欠席のご連絡をいただいております。
- ・小野 尋子（おの ひろこ）委員、
- ・北橋 義明（きたはし よしあき）委員で、でございます。

<平和部会>

- ・石垣 皓次（いしがき ひろじ）委員、
- ・岩村 俊平（いわむら しゅんぺい）委員で、でございます。

<パートナーシップ部会>

- ・倉科 和子（くらしな かずこ）委員
ご出席予定ですが、他の会議と重なっており 15 時 30 分過ぎからご参加いただきます。
- ・首里のすけ（しゅりのすけ）委員
- ・金城 徹（きんじょう とおる）委員
金城委員は今年度よりご就任いただいております。
- ・長濱 京子（ながはま きょうこ）委員、でございます。

続きまして、オンラインでご参加いただいております委員をご紹介します。

<人間部会>

- ・島袋 恒男（しまぶくろ つねお）委員、
- ・野入 直美（のいり なおみ）委員、でございます。

<繁栄部会>

- ・内間 康貴（うちま やすたか）委員、内間委員は今年度よりご就任いただいております。
- ・高良 絹子（たから きぬこ）委員、
- ・羽賀 史浩（はが ふみひろ）委員、でございます。

<地球部会>

- ・立田 亜由美（たつた あゆみ）委員、でございます。

<平和部会>

- ・村上 尚子（むらかみ なおこ）委員、でございます。

<パートナーシップ部会>

- ・奥山 有希（おくやま ゆうき）委員
- ・平田 大一（ひらた だいいち）委員、でございます。

委員のご紹介は以上でございます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

本日の議事進行は、沖縄県企画部 企画調整課 SDGs 推進室 新垣が務めさせていただきます。
新垣室長よろしく願いします。

【新垣室長】

皆様、こんにちは、本日議事進行を務めさせていただきます沖縄県企画調整課 SDGs 推進室 室長の
新垣 久美子です。本日はどうぞよろしく願いします。

委員の皆様には、ご多用の中、本会議にご出席いただき、ありがとうございます。

また、先月、開催しました「SDGs 全国フォーラム 2024 沖縄」にご参加いただき、ありがとうございます。

SDGs 全国フォーラムでは、「沖縄らしい SDGs を次世代に繋ぐ」を全体コンセプトに、先行事例の共有、官民連携などのパートナーシップの促進、次世代からのメッセージを県内、国内外に発信を行いました。今後も多様な主体の参画と取組の創出の促進など SDGs の取組の更なる促進を図ってまいります。

県の広報番組「うまんちゅひろば」でも「SDGs 全国フォーラム」の様子を2月22日、23日に放送します。

また、近々、YouTubeでも「SDGs 全国フォーラム」のアーカイブ配信を行いますので、ご覧いただけましたら幸いです。

沖縄県では、「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」では、SDGs を取り入れ、社会・経済・環境の三つの側面が調和した「持続可能な沖縄の発展」と「誰一人取り残さない社会」を目指すこととしています。

これらの SDGs 推進の取組を全県的に展開していくため、令和3年度に「沖縄県 SDGs 実施指針」を策定し、SDGs 専門部会の委員の皆様のご意見をいただき、令和4年に「おきなわ SDGs アクションプラン」を策定しました。

同実施指針においては、SDGs の取組状況等のモニタリングの実施や SDGs 達成に向けた進捗状況等のフィードバックを図ることが重要と位置付けられております。

沖縄県内の SDGs の状況をモニタリングするため、昨年度の SDGs 専門部会で委員の皆様からご意見をいただき、令和5年度にはじめて県内の SDGs の取組状況やアクションプランの進捗状況をまとめた「沖縄県 SDGs モニタリング報告書」を作成いたしました。

令和6年度も同様に県内の SDGs の進捗状況をモニタリングするため、「モニタリング報告書」を作成いたします。

本日の議題となっております「モニタリング報告書（素案）」について、委員の皆様には、忌憚のないご発言、ご助言をいただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議事を進めて参ります。初めに事務局より資料全体を説明し、その後、委員の皆様からご意見を頂戴する形で進めて行きたいと思っております。

まず、事務局から資料の説明をお願いします。

【事務局】

それでは、事務局より説明させていただきます。SDGs 推進室の川武と申します。よろしくお願いいたします。

早速ではございますが、資料1をご覧ください。

資料1の1ページ目につきまして、ご説明してまいります。

モニタリングにつきましては、昨年度（令和5年度）から実施しており、SDGs 専門部会、SDGs アドバイザリーボード会議において、委員の皆様からのご意見を収集し、令和6年3月に「SDGs 推進本部」に報告後、「令和5年度沖縄県 SDGs モニタリング報告書」として公表しております。

モニタリングは、県内の SDGs の進捗状況等を把握するため、毎年度、実施することとなっているため、令和6年度につきましても、同様に SDGs 専門部会、SDGs アドバイザリーボードの委員の皆様からご意見をいただき、報告書を取りまとめ「SDGs 推進本部」（令和7年3月開催予定）に報告をする予定となっております。

モニタリング報告書の作成の背景につきましては、昨年度にご説明しておりますが、改めて、バックグラウンドの考え方をご説明いたします。

国内の状況については、国の実施指針の中で、進捗を管理するガバナンス手法の確立や SDGs 達成に向けた取組を測定すること、ローカル指標を設定すること、このようなことが地方自治体に期待する取組として記載されております。

沖縄県の状況ですが、令和3年9月に策定した沖縄県 SDGs 実施指針の中で、取組状況等のモニタリング（進捗のフォローアップ）の実施や多くの人々の参画のもと透明性を持って点検してフィードバックを図るとされ、その役割は専門部会、アドバイザリーボードに位置づけております。

こうしたことを踏まえ、モニタリング報告書を取りまとめ、公表しているところです。

続きまして、2ページ目をご覧ください。

モニタリング報告書の構成につきまして、ご説明いたします。

第1章から第3章では、モニタリングをする背景、先進事例の取り組み、モニタリングのプロセス等を記載しております。

第4章では、県内の SDGs に関する状況について、「17のゴールごと」と「おきなわ SDGs アクションプラン」の2点での構成としております。

第5章では、沖縄県内の SDGs の活動状況につきまして、とりまとめをしております。

構成につきましては、昨年度にとりまとめましたモニタリング報告書と同様の構成を考えております。

それでは次に、3ページ目をご覧ください。

17のゴールごとのモニタリングについてご説明いたします。

指標の選定にあたっては、昨年度の専門部会でいろいろとご意見をいただきまして、昨年度の専門部会終了後に再整理をしております。

今年度のモニタリングの指標にあたっては、昨年度と比較し、進捗状況を示す必要があることから、昨年度に選定しました指標でモニタリングを実施しております。

指標の設定にあたっては、全国値との比較可能な「共通指標」と地域特性を補完する「ローカル指標」を設定しています。また、年次でデータが取得可能なものを選定して評価しております。

SDGsにつきましては、多岐の分野にわたり、様々なアプローチの仕方があることから、指標によっては、大きくSDGsの進捗状況が変わるため、地域にあわせた指標、安定した毎年のデータが取得可能な指標を選定し、当面は独自に選定した指標でのモニタリングの実施をすることとしております。

4ページ目をご覧ください。

昨年度の専門部会でのご意見を踏まえまして、改めて調査し、令和6年度のモニタリング報告書から新たに4つ追加した指標となります。

ゴール3の「合計特殊出生率」の追加指標については、少子化への対応として安心して子育てできる環境の実現等に対するアクションとして追加しております。

ゴール4の「採用後の10年までの正規雇用の教員のうち、特別支援教育に関する経験が2年以上ある教員」の追加指標については、すべての人々に包摂的で公平な教育という観点から追加しております。

ゴール12の「レジ袋辞退率」、ゴール15の「森林整備面積」については、沖縄の実情にあわせましてローカル指標として選定しております。

5ページ目をご覧ください。

17のゴールごとのモニタリングの評価方法についてご説明いたします。

SDGsの17のゴールごとに、沖縄県の前年値・現状値、全国値を収集・整理、各指標の評価と各ゴールの評価を行っております。評価にあたりまして、進捗状況、全国値との2つの視点から評価を行っております。

進捗状況につきましては、SDGsの17のゴールごとに選定した各指標について、前年値と現状値を比較し、「前進」、「横ばい」、「後退」の3段階を矢印で評価を行っております。進捗状況の評価基準につきましては、昨年度の専門部会のご意見を踏まえまして、変化率を用いまして、5.0%以上であれば「前進」、-5.0%より大きく5.0%未満の場合は「横ばい」、-5.0%以下であれば「後退」としております。

全国値との比較結果については、全国値との比較可能な「共通指標」を評価しており、沖縄県の現状値が進んでいる場合は「達成」とし上向きの矢印、進んでいない場合は「未達成」とし下向きの矢印で示しております。

6ページ目をご覧ください。

「アクションプラン」のモニタリングの評価方法について、ご説明いたします。

「おきなわSDGsアクションプラン」では、SDGsの17のゴール及びターゲットを踏まえ、SDGs達成に向けたモニタリング指標としてローカル指標を設定しております。アクションプランでは、プランの作成時に沖縄県の現状値（基準値）と目標値を掲げており、この指標に対し進捗状況をモニタリングしております。

アクションプランの評価方法については、ローカル指標に対し、基準値と現状値を比較し、「前進」「横ばい」、「後退」の3段階を矢印で示しております。「進捗状況」の評価基準につきましては、17のゴールと同様に変化率を用いまして評価しております。

達成度の評価につきましては、アクションプラン作成時に設定している目標値に対し現状値の割合から達成度を算出しております。

7ページ目をご覧ください。

7ページ目は、事前に送付しました説明資料になく、追加したものになります。

ゴールごとのモニタリングとアクションプランのモニタリングの指標の経年変化の見せ方について、

ご説明いたします。

昨年度から県内の進捗状況をモニタリングしており、SDGsの進捗にあたっては前年度との比較だけでなく、前々年度はどうかといった把握も必要ではないかと委員の皆様からご意見をいただいております。

本編の指標の中に落とし込むのではなく、別紙として経年変化をみせられないかと考えているところです。経年変化の見せ方につきましては、図のエクセルファイルのイメージを示しておりますが、ご意見がありましたら後ほど伺いたいと存じます。

モニタリング報告書に関する概要の説明は以上となります。

続きまして、8ページ目をご覧ください。

「沖縄SDGsサマリー（仮称）」について、ご説明いたします。

昨年度のSDGs専門部会等で委員の皆様からモニタリング報告書に関し、様々なご意見をいただきました。

SDGsの進捗状況について、その要因・分析、課題や今後の取り組みについて整理できないか。指標について定量的なものだけでなく、主観的な指標を入れたどうか等のご意見をいただいております。

このようなご意見を踏まえまして、次年度に「沖縄SDGsサマリー」の作成をしたいと考えております。構成につきましては、今後議論をしながら検討していきたいと考えております。

9ページ目をご覧ください。

現在、県内のSDGs取組状況を把握のため、「17のゴールごと」、「おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリングをしているところですが、更に取組の見える化を図るため、サマリーの作成を検討しているところです。

サマリーを作成します目的としましては、モニタリングでとりまとめた取組状況を客観的に分析し、課題解決に向けた具体的な取組を明らかにすることにより、県民に分かりやすく共有することなどで取り組みの見える化を図ることなどを想定しております。サマリーを作成することにより、県民・企業・団体、自治体などの新たな取り組みの創出や効果的な取り組みの促進を図ることができるのではないかと考えております。

次に10ページ目をご覧ください。

「沖縄SDGsサマリー（仮称）」の検討作業イメージの図になります。

スケジュールとしては、現在、サマリーの方向性の検討・確認を進めているところです。

次年度（令和7年度）に、たたき台を作成し、専門部会やアドバイザリーボード会議においてブラッシュアップをしていく、その後、素案を作成し、最終的に沖縄県SDGs推進本部会議で報告することと想定しております。

以上が、資料1の説明となります。

続きまして、報告書（素案）についてご説明いたします。

8ページ目をご覧ください。

こちらは、先ほど説明いたしました17のゴールのモニタリング結果につきましての全体の評価結果となっております。

当初は棒グラフで進捗を示していたのですが、昨年度、専門部会の委員の皆様から視覚的に分かりやすく表示したほうが良いなどのご意見をいただきまして、パネル化して評価を示しております。一部、調査中の指標もございますので、後日差し替えをいたします。

評価結果につきましては、今回選定した指標での評価となります。指標が変わると評価結果も変動

してきますので、県内の SDGs の状況を確定するものではないことに留意が必要となります。

9 ページ目から 37 ページ目まではゴールごとの個別の評価となります。

続いて 38 ページ目をご覧ください。こちらは、「おきなわ SDGs アクションプラン」のモニタリングになります。アクションプランは、12 の優先課題全体について、39 の目標に対してローカル指標が 59 あり、その進捗状況の結果を示しております。

全体の状況については、59 項目のローカル指標に対し、前進 34 項目 (57.6%)、横ばい 10 項目 (16.9%)、後退 (16.9%)、基準値と比較するデータが未更新の指標に関しましては、その他としており、4 項目 (6.8%) となっております。

39 ページ目をご覧ください。

こちらは、12 の優先課題の進捗状況をパネル化し、結果を示しております。昨年度の専門部会で視覚的にわかりやすくしたほうがいい等のご意見をいただきまして、17 のゴールごとの結果と同様にパネル化しております。

40 ページ目から 63 ページ目までは優先課題ごとの進捗状況となっております。当初は、優先課題ごとの進捗は本編ではなく付属資料として示しておりましたが、昨年度の専門部会でご意見をいただきまして、本編に組み込む形で整理しております。

それでは、次に 64 ページ目をご覧ください。

こちらからは、沖縄県内の SDGs の活動状況を記載しております。

「おきなわ SDGs プラットフォーム」を含めた県内の取組と「おきなわ SDGs プラットフォーム」の取組事例との 2 部の構成で記載しております。SDGs の活動状況を共有することで、参画の促進などに繋げていければと考えております。

以上が、報告書（素案）の説明となります。

モニタリングの事前照会につきまして、ご意見をいただきましてありがとうございます。事前にいただきました委員の皆様からのご意見について、県の対応方針をご説明いたします。

令和 6 年度沖縄県 SDGs モニタリング報告書に係る委員意見の資料をご覧ください。

【照会事項 1】17 のゴールごとのモニタリングについての対応案を説明いたします。

No1 の涌波委員からのご意見について、今年度の報告書の中に前々年値も入れることができないかのご意見に対して、対応案としましては、さきほど資料 1 でご説明しましたが、経年変化の見せ方については、本編の指標の中に落とし込むのではなく、別紙として経年変化をみせられないかと考えているところです。本日、涌波委員は欠席しておりますので、後日、対応案を共有いたします。

No2 の岩村委員から、パネル図と凡例の図中の表記が異なるとの意見につきましては、表記を「前進」に統一した書きぶりに修正いたします。

また、17 のゴールごとの進捗状況の表記に対するご意見については、前年値と現状値の比較となりますので、「進捗状況」と表記するのか「前年比」と表記するのかは再検討いたします。

No3 の岩村委員からのご意見、大きく変化している指標については、ゴールごとの文末に補足説明を記載する方向で整理いたします。

原因対策等については、次年度に作成するサマリーで記載できないか検討いたします。

2 ページ目をご覧ください。

No4 の大城千尋委員からの、関連した項目は各分野の連携した対策が必要ではないかのご意見に対しまして、SDGs の達成にあたっては、それぞれの分野で統合的に取り組む必要があると考えます。総合的な対策に関しましては、次年度に作成するサマリーで記載できなかつ検討いたします。

No5の倉科委員からの、経年の状況がわかるような工夫が必要ではないかとのご意見につきまして、本編の別紙として掲載するなど経年変化の状況をみせられないかを検討しているところです。

No6の倉科委員からの、昨年度との齟齬のある指標について確認や説明が必要ではないかとのご意見に対しまして、指標を確認したところ、今年度、6つの指標を遡及修正しております。修正のある指標につきましては、説明を追記する方向で検討いたします。

No7の倉科委員からの、大きく変化した指標の分析が必要ではないかとのご意見については、補足説明を記載する方向で整理いたします。

No8の倉科委員のご意見で、ゴール16の指標に関連し、指標が暴力・犯罪にかたよっているため、平和学習や平和に関するイベントの数の指標の追加ができないかとのご意見については、ローカル指標として、関連する指標がないか整理し、追加できるか検討いたします。

No9の倉科委員から、進捗を確認した上で、今後の対応や取組の検討が必要ではないか等のご意見につきましては、有識者のご意見を踏まえ、次年度に作成するサマリーで記載できないか検討いたします。また、サマリーの作成周期については、定期的（ある程度進捗の状況がみえる3年毎）などで作成を想定しています。

No10の金城委員からのご意見、ゴールにおける指標選定における説明や指標を選定した意図を明確にしたほうが良いのご意見につきましては、指標の選定にあたっては、内閣府の「地方創生SDGsローカル指標リスト」、自治体SDGsモニタリング研究会の「SDGs達成度評価指標」を参考にしているところですが、選定した指標によりモニタリング結果が大きく変化すること、SDGsは様々な視点があることから、委員の皆様のご意見を踏まえ、指標の選定を検討していきたいと考えております。

また、ゴールごとの指標選定に対する意図につきましては、報告書に記載できないか検討いたします。

No11の島袋委員のご意見、進捗状況の分析や考察の整理につきましては、有識者のご意見を踏まえ、次年度に作成するサマリーで記載できないか検討いたします。

No12の小野委員のご意見、「ゴール1 貧困をなくそう」に対する指標の追加については、小野委員からの提供資料を配布しておりますが、年次データの取得ができるかなど、指標の状況を精査した上で、指標の追加を検討します。のちほど、小野委員から補足の説明をお願いいたします。

6ページ目をご覧ください。

【照会事項2】「おきなわSDGsアクションプラン」についての対応案を説明いたします。

No1の岩村委員からの、達成度の計算式がわからない等のご意見については、本編に達成度の計算式の記載がないため、追記いたします。また、目標値を達成している指標に関しては、100%以上の達成度となり、わかりにくい数値となりますので、わかりやすく記載できるよう工夫します。

No2の大城千尋委員からの、保育士不足に対する現状や今後予定している対策等のご意見について、モニタリング報告書を県の関係部署、市町村などと共有を図り、連携していきます。また、有識者のご意見を踏まえ、次年度に作成するサマリーで記載できないか検討いたします。

No3の倉科委員の目標値に対する達成度の計算方法がわからないなどのご意見について、本編に達成度の記載がないため、追記いたします。

No4及びNo5（7ページ目）の倉科委員からの、昨年度と異なる指標があるなどのご意見について、前年度の報告書に誤りがありますので、修正いたします。修正理由を記載する方向で検討します。

No6の倉科委員からの、大幅に変動している指標に関しては理由が必要ではないかとのご意見について、大幅に変動している指標に関しましては、理由を記載する方向で検討いたします。

No7の倉科委員からの優先課題12の指標2の数字の根拠がわからないなどのご意見につきまして

て、担当部局に数値の根拠を確認しておりますので、確認後に再整理をいたします。

No 8 の金城委員から、達成目標に対し、順調に進んでいるのか遅れているのか、進捗状況がわかりづらいなどのご意見について、進捗状況の分析を有識者のご意見を踏まえ、次年度に作成するサマリーで記載できないか検討いたします。

No 9 の島袋委員から 12 の優先課題は、17 のゴールに比べ進展している項目が多いが取組が強く意識啓発が進んでいるのかなどのご意見に関して、アクションプランは、県民アンケートや関係機関との意見を踏まえ、沖縄らしい SDGs 達成に向け、県が県民とともに取り組むアクションを 12 の優先課題ごとに設定しております。そのため、進展している指標もあるかと考えております。

総合的な分析については、次年度のサマリーで検討できないかと考えております。

【照会事項 3】「沖縄県内の SDGs 活動状況」についての対応案を説明いたします。

No 1、No 2、No 3 の倉科委員からの SDGs の取組を具体的に記載したほうが良いとのご意見について、参加の促進につながるよう工夫して記載する方向で検討いたします。

以上が、事前にいただきました委員の皆様からのご意見について、県の対応方針となります。

モニタリング報告書素案やモニタリング手法等や事務局から説明のありました事項、皆様から頂いたご意見も含め、広くご意見を頂戴したいと思います。ご質問もございましたら、どうぞ、お願い致します。

【小野委員】

琉球大学の小野です。

質問事項に書いた（追加資料 5 ページ）のところ、ゴール 1 か 11 で迷ってここに書いたんですけど、指標で言いますと、公営住宅を必要とする需要量に対する公営住宅の整備率が該当するという形で、これ住生活基本法に基づいて県が計画を作ってますので、算定資料としても載っていますし、公営住宅の需要量については、国土交通省の方が算定指針を出しているの全国の値と比較可能なものとなっていますので、その整備率を入れていただけないか、ということです。

その理由として、論文で申し訳ないですけど 8100 と書かれた資料を見ていただければわかりやすいと思うんですけど、10 年ぐらい前の資料ですが、那覇市の状況となっており、簡単に抜粋しますと民間借家がすごく多くて、住宅地価格は全中核都市 8 番目に高いが年収は一番低い、というのが沖縄県の都市部の状況となっています。

その中で図 1 を見ていただくと分かるように、国土交通省が出してる流れは、公営住宅に入居する必要がある人は算定しなさいということで、算定方針を書いています。区分 1、2、3、4 とありまして、区分 1 は年収が著しく低くて、最低居住面積も満たしていない人達、区分 2 は年収が低い居住面積を満たしている人達、区分 3 は年収が著しく低いわけではないが、少し狭い住宅に住む人達、とそれぞれ区分があります。通常、全国では区分 4 まで対象にしているんですけど、沖縄だけが区分 1 だけしかやりませんっていうことで、全国でも珍しい運用をしています。沖縄で区分 1 だけにすると、他の市町村が区分 4 までありますという独自の運用をすると、そこに流れ込んでしまうので全部県では区分 1 だけになっています。区分 1 だけで、区分 4 までやっていない事例が表 2 に出したもので、これは全国の中で那覇市、秋田市、長野市っていう形でこうなってるんですけど、区分 1 だけにしてるのは、那覇市だけっていう状況で、ただ、これも沖縄県は該当者が多いという一面もありますが、指標には入れた方がいいと考えています。

これが、子どもの貧困に直結してるのか、ゴール 11 の住み続けられる都市なのかはちょっと測りかねますが、それによってどういう状況が生まれてるかっていうのは、こちらの全 4 ページになっている資料（日本建築学会九州支部報告書第 61 号）にあるように、公営住宅に漏れた世帯がどうい

状態に住んでるのかというのを調査したもので、この調査では、具体的にいろいろ聞いてるんですけど那覇市で3万円台前半で、那覇市以外のところで2万8000円とか、それぐらいで住んでいる民営住宅があって、そのパートがあるのはそれ何かって言うと、社協が抱えている住宅補助世帯、生活保護世帯は住宅部分をもらえるので、住宅控除費用とぴったり同じ金額で提供してる古い、もうぼろぼろの住宅みたいなやつなので、普通の住宅情報には出てこない、そういうところに行くと、どういう状況なってるかっていうと、台所の水道の蛇口をひねれば赤水が出てくるので、飲料水はもちろん料理にも歯ブラシにも使えない状態ですので、ウォーターサーバーを置いている形になっています。また雨漏りがする、台風のときに強い横雨で水がこぼれてくるという住宅に、保証人もない、貧困ビジネスまでいうとちょっとあれかもしれませんが、住宅補助が出るギリギリで、公的から来てるので、取りっぱぐれることがなく、保証人も敷金礼金もなしで入れるところとなっている。そこは社協の人たちが知っていて、福祉住宅って名前で、通称で言ってるんですけどそれがあると。古くて広いものと、新しく狭いものがあるんですが、古い方は、そういう接続面に非常に大きな問題がある。

特に配管の老朽化と雨漏りだとかそれによってコンクリートが剥離しそうなベランダとか、そういうのがあって、新しく狭い方はどういう形になるとかという、3人世帯で1DK、4人世帯で2DKみたいな形になるので、きょうだいで性別が違っていても、就寝場所を分けられない、もしくは食べる場所と寝るところが一緒になっている、着替える場所は、脱衣所やトイレまでいかないといけない状態なっていたりします。ほかにも、収納面等で子どもがテストを持って帰ってきてもファイリングすることがなく、すぐ捨てちゃうので、テストの見直しができないという、学習面の課題にもなってますし、あと例えば工作とか、子どもにとっては学習意欲に繋がるものなんですけど、工作を置く場所がないから、これは家庭によって違うんですけど、写真に撮ってすぐ捨てちゃうとか、あと、物がもう溢れ出してくるので衣類とか、寝具が溢れ出してくるので、友達を呼べないから、うちには来てもらえないから、あなたの友達の家になら駄目よっていう形で、子どもの社会生活に非常に影響を与えるということで、住生活、貧困をなくしていこうというのを下支えする、この公営住宅というのは民間市場への対抗として有効に機能していかないといけないので、やっぱり必要とする世帯がいるなら、公営住宅というのを整備していく、民間市場の方で、供給される最低限のレベルを押し上げていくっていう形になりますので、沖縄県の状況としては、指標として加えていくことが必要だと考えています。

【新垣室長】

ありがとうございます。いただいた資料も参考にしながら、検討していきたいと思います。

【小野委員】

指標をどこからとらないといけないかわからないときは聞いてくださいね。

これ全国的な指標で年次があるかわからないですが、計画期間において達成度が取れる指標としてありますので。

【新垣室長】

ご相談させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【岩村委員】

沖縄県公衆衛生協会の岩村と申します。

昨年度の委員会でもですね、栩野委員から定性的、主観的な評価をしたほうがいいというご意見がありまして、私もこれずっと考えていたというか大事なことだなと思ってはいたんですけども、例えば、こういう議論が進んでいけば教えていただきたいんですけども、資料2の40、41ページを見たときに、優先課題がありますけれども、この大本は、21世紀ビジョン、それを担保するための優先課題が12個あって、それで、優先課題1の中には、個別の目標があってさらにそこにローカル指標がある形になっています。そして、それぞれに目標値が、例えば、ナンバー1だったら100%、ナンバー2だったらそれぞれ3.6%、80%とあります。

考え方としては、これらが全部目標に達したら、優先課題1が解決されるっていう、立て付けになってるんですね、つまり全ての指標が目標値に達したら、あらゆる場所で活躍できる社会が実現されているはずだということだと思います。

でも実際それを評価するっていうのは、個別具体のものだけで評価できないと思います。

例えば、目標値には近づいていたとして、実際にこのあらゆる場所で活躍できる社会の実現に近づいているのかどうかを、アンケートを取らないとここは評価をどうしてもできないのかなという印象を持っております。

仮にですね、全部目標値に達しているんですけども、あらゆる場所で活躍できる社会の実現になってると思う人の割合が30%しかなかったら、多分指標が適切ではないことになる。よって、直さないといけないということになると思うんですけども、そのためには、例えばおきなわSDGsパートナーの企業の皆さんなどにアンケートをとって、フィードバックをもらって、どの程度達成してるかっていう、ある種のバイアスがかかるかもしれませんが何かの形で、アンケートをとって、定性的にでも、達成に向かっているのかどうかというのもあった方がいいのかなって気はしています。そのあたりの議論が進んでいけば教えていただきたいです。ちょっとすぐにはおわかりにならないかもしれないですけど。

【新垣室長】

はい、そうですね。

去年からこのモニタリングっていうのは始まっているんですけど、やっぱり主観的な指標が必要じゃないかという議論はありまして、今ある主観的な資料っていうのをやっぱり、毎年はとれないところがアンケートなので、多いなと感じておりまして、実際指標にしようとするものを、見つけれない状況であるんですけども、それでも県民意識調査などの主観的な資料を用いて検討する必要があると考えておりまして、それをサマリーを、今後、毎年するのかどうかだ決まっていらないんですけど、3年おきに、やっぱり分析がある3年とか、ある程度期間をもってやる方が意味があるんじゃないかと考えているところもありまして、サマリーの中で主観的な指標をとらえながら分析して、じゃないかなあというようなことは考えております。

実際、主観指標が足りてなかったら、アンケートっていうのを実施していくっていうことも必要になるかとも考えるんですけど、そのあたりまた予算、そういったもの考えなきゃいけないので、すぐに決定できる状況ではないんですけども、そういう意見も踏まえて今後考えていきたいと思えます。

【岩村委員】

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

【新垣室長】

ありがとうございます。では栩野委員をお願いします。

【栩野委員】

栩野です。

文書全体のわかりやすさ、メッセージ力という観点から、2つお伝えしたいと思います。

先ほど岩村委員の話も関連して、サマリーが非常に重要になると思いました。

今ある文書だけだと理解しづらいのが正直なところですが、サマリーがついてくるととても分かりやすくなる。私がイメージしたいのは、例えば高等学校、中学校の授業で使っても理解されるぐらいの明快さのサマリーができたらとても良い。このサマリー、主観指標を入れたり、いろんな分析考察を入れたりするので、サマリーというネーミングにちょっと違和感があって、もっと重要なネーミングであるべきかと思います。総括とかでしょうか。サマリーと言うとちょっと語弊がある。非常に期待しているのと、ネーミングはしっかり考えるといいかと思いました。

もう1つ。今回すごく工夫されたと思いますし、一番の工夫のポイントが、8ページと39ページのレーダーみたいな表記の仕方かと思います。

ただ、8ページと39ページのレーダーみたいな表現を見ると、39ページは結構納得感があるんですが、8ページは変な感じがあります。例えば、8ページのゴール3「すべての人に健康と福祉を」のレーダーチャートは「11%」ととても悪く見えるけれど、ちゃんと見ると、全国比より良い指標の方が多いわけです。ではなぜ11%かという、経年推移において緑の矢印が1個しかないからで、感覚的に整合しない気がします。全国比より良いのに11%と言っていいのかどうか、ちょっと違和感があります。8ページには、進捗と全国比と両方あってどっちで見るべきか明確でない一方、39ページは、素直に「目標値に対して進んでいるかどうか」で分かりやすい、ということだと思います。文書の分かりやすさという面で、8ページと39ページが最も重要なページに当たり、納得感のある表記であるべきだと思いますので、もうちょっと工夫が必要かなと思いました。

【新垣室長】

そうですね17のゴールの部分は全国的な比較っていう、意味では、アクションプランのモニタリングとは違うところでもありますので、全国比などの部分も見えるような改善もできないかなと検討していきたいと思います。ありがとうございました。他にご意見ありませんでしょうか。

【金城委員】

大学コンソーシアム沖縄の金城です。今年から参画させてもらっています。

今回、この報告書を見た印象ですが、17のゴールについての全国値と沖縄県における進捗として、去年から今年でどれだけ上がったのか下がったのかという数値しかなく、達成する目標値がみえないと感じました。栩野委員の言われたグラフの見え方が歪に見えるというのは、そういうところもあるのだろうと思います。

私は、この17のゴールに対する数値等がちゃんと設定されているかどうかだと思っていて、ここから何年かけて沖縄はそこに向かっていくのか、それに対して今どれぐらいのところにいるか、例えば100%のうち20%までしか進んでいない、といったところが見えるともう少しわかりやすいのではないかというのが、先に書かせてもらった意見の意図でもあります。

この報告書は沖縄県民も見るとと思いますが、今の内容のままだと、これは何のためにしているのだろう、なぜこうなるのだろう、というふうに思う方も多いのではないかと思います。おそらく、沖縄県はどこにゴールを求めているのだろうと思ってしまうところがあるので、目標値等が設定されてい

ると良いのではないかと思いました。以上です。

【新垣室長】

ありがとうございます。

【倉科委員】

すいません今の金城委員のご意見にちょっと関連して、最初の、このSDGsのゴールに対してのところは、全国値との比較だけになって、全国値を達成したらそれで、本当に達成されてるんですかっていうところなんだと思うんですね。

沖縄の優先課題については、目標値が設定されているので沖縄県としては、これを達成すればいいと考えられるんですけども、17のゴールと優先課題が両方あることが、ちょっとわかりにくくさせている1つの要因かなあと思うので、今はこの形式でやっていて、今後もこの形式で続いていくんでしょうけれども、ちょっとこの将来的に眺めてみたときに、どういうふうにしていくのかっていうのは、考えたほうがいいかなと思いました。

あとは、これはコメントでも出させていただいていますけど、その経年の変化、前年度との比較だけではあまり意味がないんじゃないかなと思っています。目標値に向かってどうなのかっていう、全体の変化が分かる方がいいですし、それは名前を変えた方がいいサマリーになっていくのかもしれないんですけど、あれもこれを見なくちゃいけなくて、よく分からないなというふうにならないといいかなと思いました。

【新垣室長】

ありがとうございます。今、17のゴールとモニタリングがあって、17のゴールには目標値がない状況です。それがモニタリングをしていても、よくわからない状況になってる原因となっているのかなと考えているんですけども、今後は17のゴールを使って、目標値を立てるかどうかというところを検討するかどうかを検討していく必要があると考えました。

サマリーについては、やっぱりモニタリング報告書がとてもデータブック的な形になっていて、これからどんどんデータが増えていって、ひも解いていくのにちょっと時間がかかるな、という形になっているものですから、サマリーについては分析して、県民にこうこういうアクションを今後やっていきたいと思いますというのが伝えられるような内容、このモニタリング報告書を公表したことで、こういうことが足りないからやっていきたいと思いますということを県民に伝えられるような形で、作っていきたいと考えているところです。

【喜屋武委員】

グッジョブおきなわの喜屋武と申します。

皆様のご意見と同じだったり重なる部分もあると思うんですけど、昨年のモニタリング会議でも、この17の目標に沖縄の現状を合わせるのって、何か県民として違和感があるねっていう話が昨年のモニタリング会議の中で出て、ちょっと確認でもあるんですけども、私ちょっと公教育の支援をしているので13ページでちょっとお話させていただきますと、この質の高い教育というところが、横ばい傾向にあるんですね。でも、実際の沖縄の最大の課題って不登校児が増えているという問題で、県民としては、その不登校児どうするのっていうところと、お話が脱線しますが、先日、県の子ども子育て会議に参加させていただいて、教員不足、保育士不足、県の施策や国の施策を充実すればするほどそれを担う人材不足という、悪循環って言葉使いたくないんですけど、なんかもう、手立てをした

ら人がいないとかっていう部分を、県民としてちょっと考え、感じているんですが、報告書で17の目標にしてしまうと、そこがちょっと隠れてしまっていて、本当の沖縄の人達のためのSDGsになっているのかなあっていうところが、見た人が、折角皆さんが一生懸命作って、私たちも一生懸命見てるんですけど、それが何か県民の思いが伝わらないっていう悲しい結果にならないようにしなきゃいけないなっていうふうに、思っています。

また同時に企業さんもそうですし、60ページの2の優先課題もそうなんですけど、地域文化や行事に、若い世代参加するという、昔からこれ、首里のすけさんの方がご専門だと思うんですけど、これなんか、イベントがたくさんあるってということよりも、もう今私も離島とか行きますと、もう何か青年会も、自治会の役員も、社協さんのお手伝いもやり、いろんなことをしている人たちがいて、もうそこが大変なんだっていう話も聞くので、やっぱりこの、現実に即したサマリーって言われるものが、ここから発揮する部分だと思うんですけど、その次年度に、今年度はこれで大丈夫と思いますけど、もう少しSDGsっていう枠組みから私たちは、ちょっと沖縄の枠を外してもいいんじゃないかと、沖縄の未来のために20世紀ビジョンだったり、様々、福祉や子育てのいろんな会議もありますし、そこと連動して、先ほどアンケートの費用も捻出が多分大変だと思うんですけど、それぞれ担当行政の皆さんがされているものとかと連動して、ここはもう集約するところとして、沖縄の未来のために、21世紀ビジョンは目標だけど、SDGsのモニタリングが実際にどうなってるのかなっていう、本当のモニタリング、幸せって感じてますか、っていうところに少し移行していくような方向性が、よろしいのかなっていうふうに思いました。以上です。

【岩村委員】

公衆衛生協会の岩村です。先ほどから皆さんのお話が、その通りと思ったんですけども。また、2030年ポストSDGsがもう目前に迫っているところだと思いますので、そもそもこの沖縄の優先課題12っていうのは、SDGsを横断的に、かつバックキャスティングモデリングによって、ブレイクダウンされた結果こうなっているんで、これが実現されるとSDGsの実現にも役立つっていう、本当はそういう仕組みになってるはずだとは思っています。

ですのでやはり先ほど、喜屋武さんがおっしゃったようなことも含めて、もうそろそろ集約っていうかSDGsと沖縄と分けてっていうところは、2031年もこの議論をしてるかっていうと多分してないと思います。ですので、そろそろまとめる方向にいかないと思います。皆さんのお話を聞いての感想です。

【北橋委員】

北橋です。

私も似たような意見なんですけど、やはり日本全体とか、SDGsっていう非常に幅広いものを押し並べて、ただ横並びの数字を見るんじゃなくてやはり沖縄として、SDGsを推進するために、現在何が課題で、その課題をどうやっていきたいっていうことが各指標にも、作ったばかりなんで、いきなりそこで今足りてないっていうつもりはないんですけど、先のもものとしてはそういった、沖縄としてどうしたい、だからそれが見える指標はこれなんだ、っていうふうにしていく必要があるのかなというふうに思いました。

そのために先ほどから話になっている、サマリーという名前がいいかって話ありましたけど、やっぱり、今全国に比べて遅れてる、もしくはもっと持ち上げなきゃいけないんだけど、そうでない項目がある中で、現状、一体どんなところが課題になって、そこが上がってないのかなっていうのは、それは多分、SDGsの部門が考えるよりは、県庁の中のそれぞれの労働部門だったり、観光部門だったり

そこら辺の方々は、よくご理解をされてると思いますので、そういったところも上手く引っ張ってくればいいのかなどというふうに思いました。

例えば今ぱっと思いつくところと言うと、持続可能な観光のところで、全産業の平均収入が基準になってるんですけど、多分そうではなくて持続可能な観光と言ってかつ、観光が基幹産業ですよと言ってる沖縄県であれば、やはり観光業に就労されてる方の年収だったり、非正規雇用の割合であったり、或いは海外からの単価であったり、そういった、多分それは観光部門で毎年やられてる統計の中でうまく使える数字なんかがあるんじゃないかなと思ったりですね、そういう意味ではこのSDGsを達成するってのは、SDGs推進室の仕事ではなくてやはりそれぞれの部門の総合力の話だと思うんで、うまくそこは連携していただけていいかなと思いました。よろしくをお願いします。

【新垣室長】

ありがとうございます。

沖縄の優先課題をまとめたのがアクションプランですので、足りないところや、変えていけないといけないところは、アクションプランの改訂を含めて今後も検討していきなさいいけないと考えています。

また、沖縄県庁内での連携について、沖縄県SDGs推進本部は、県庁内の各部長が委員となっている組織ですので、その中で、モニタリング等を共有しながら、進捗についてはみんなで進めていけるようにしたいと思います。

【小野委員】

すみません、事前に質問したところではないんですけど、58ページと60ページの優先課題のところの⑨と、⑩のところなんですけど、前からの引継ぎであるなら別なんですけど、この⑩の方にある自主防災組織率は、⑨の方に入れたほうがいい気するんですけど、⑨の1のローカル指標に入れる方が親和性が高いのかなって感じがします。

もう1つこの⑩の方なんですけど、ボランティア団体だけではなくて、地区福祉協議会の施設設置数とか、福祉も地域に下りてきているので、何かそれに関する指標があればと思います。いま地域の福祉も結構大変ですよ、それがいいかどうかは別としてただそういう方向で、公助とかはもう無理なんで共助ちょっとやってくださいみたいな感じでかなり地域に負担はかかっていると思うんですけど、どういう状況にあるのかっていうのは、あってもいいのかなと思います。

【新垣室長】

ありがとうございます、調査して検討してみます。

【小野委員】

あと、自治会加入率とかは入れないですか。県下の市町村に聞けば自治体加入率も出してるまとめてるはずですので、あと集計はできると思います。

【新垣室長】

調べてみます。優先課題については、アクションプランの中に入っているので、アクションプランの改訂の際に考えてみたいと思います。

【小野委員】

社会福祉協議会の方はいろいろ情報を持つてると思うんですけど、例えば民生員の数とか、地域での、本当に地域に全部押し付けるのは、あんまり賛成ではないんですけど、多分それでも、ある程度のことを担っていただかないといけないとすると、福祉、ゆいまーるみたいなところで言うと福祉関係の記載がちょっと弱いかなって感じがします。指標として何かを入れとかなないと、地域を回っていると防災の話と、福祉の話が月1の会議で、毎週金曜、月1回の毎週金曜日に入っている、そういう状況になって、同じ人が出てくるとかそういう状態にあります。PTAと福祉と予算と何とかって感じになっているようなので、福祉指標を入れるのが大事だと思います。

【新垣室長】

ありがとうございます。指標については今後検討していく必要があると考えますので、いろんなデータについて皆様のご協力を得ながら検討させていただければと思います。

会議資料1の7ページの所で、指標の経年変化の見せ方について、別冊の形で経年変化の表をつけたいと考えていますが、それについて意見があれば伺いたいです。

【倉科委員】

ちょっと1点だけ伺いたいです。この7ページの、沖縄のデータの方ですが前年度と変化がありますが、これは無くてもいいんじゃないかなと。

数字を見れば、その経年の様子っていうのはわかって、前年度と比較するというこれが入ってるのは、全国の方は経年の様子がわかって、全体としてどうなってるという方向性のその矢印だけがあるんですけど、横ばいだったら矢印をどうするか、全体の流れだけがあった方が結構わかりやすい、全体の流れとしてはわかりやすいんじゃないかなというふうに思いました。

【喜屋武委員】

今ご意見があったように、この変化率は1年でやってもあまり意味がないのかなということと、やっぱりですねこれを私たちどこに持っていきたいのかが分からなくて、やっぱりゴールっていうのは見せていかないと、そこに向かって動いてるのか後退してるのかっていうのが見えないなあというのが正直なところで、全国があったから、そこに向かうのかとか、ちょっと見えないなというのが正直なところですよ。すみません。

【長濱委員】

7ページの表を見て、県民の皆さんがわかるかなと、この細かい図を見るかなと思ったとき、平均所得が何万円足りないよとか、何か具体的にあれば、サマリーを作っても意味があるわけで、皆さんご苦労なさってるので、何かいい方法がないかなと思います。例えば全国比で極端に6,000円ぐらいオーバーしてますとか、なんかそういう文面があったら、文面で表すかどうかとも分らないんですけど、何か、全国と比べるなら、私たちはこうなっています、そして全国はこうですけど、実際はたくさん出してます、もらってる人がたくさんいます等の表示。

具体的に折れ線か何か分からないですがそういう何か見やすいサマリーになればいいかなと思います。あと目標値があったら、一番わかりやすいかなと思います。例えば、4000円ぐらい全国と比べていっぱいもらっていると、支給しているとか、これを全国値に近づけるために県としては、差をどれぐらい埋めているとか、目標値があるのでそこに向かっていきます、とかあれば、見やすく、わかりやすい形で表示。

すみません、以上です。そんなことができるのかも分からないんですけど。

【新垣室長】

沖縄県の目標値としてアクションプランで整理しているときに、17のゴールを元に沖縄の目標値は書けていないので、17のゴールの方でモニタリングをするとこういう目標が、どうなのかっていう話になる状況になってるんですね。

そういう意味では17のゴールにおいても沖縄の目標値を、作るべきかという議論をしていかないといけないかなと感じています。

【倉科委員】

私はもう全国のごことはちょっと置いといてもいいんじゃないかとちょっと思いました。

全国の所の表はとりあえず置いといて、沖縄で、21世紀ビジョンの流れから作成された沖縄のアクションプランに対して、もうちょっと見やすくすべきではないかと。アクションプランは目標があるので、先ほどおっしゃられたように、目標はここです、●年度から始まって今こういう状況にあります、達成までにこのぐらいの幅がありますとか、いや逆にちょっと下がってます等、目に見えるグラフで描かれていると、こんな感じなんだというイメージが、県民の方に伝わりやすいかなあと。

目標をどんどんふやしていくのはやめた方がいいんじゃないかなと思います。

【栩野委員】

17のゴールは、県として目標設定をしてないので無理を言っても仕方がないと私は思っていて、一方で、アクションプランは目標があるから分かりやすい。

17ゴールについて。統計的な言い方のダイアグノスティックな、つまり診断的な数字の見方というのがあり、必ずしもできた・できなかったではなく、相対感がわかれば良い、という数字の使い方もあります。17のゴールについては、県として目標設定していないので、診断的な数字の見方で良いのではないかと思います。何か結論出すのではなく「大体この辺にいる」がわかれば良い、と割り切るのもよい。それこそ、全国値との比較って結構意味があるのではないかと。そうであれば、例えば、指標ごとに、沖縄の経年の数値と、全国の経年の数値を、二本の折れ線グラフで表現すれば一目瞭然と思います。トレンドも全国比も1発でわかる。必ずしも「だから何」という結論出すのではなく「相対的に沖縄は今こんな感じ」がわかれば良いと割り切れればとても使いやすい。今までの議論と違う方向の話なんですけど、そういうのもいいんじゃないかなと思ってます

【新垣室長】

そうですね、モニタリング自体がアクションプランでモニタリングするっていうのが前提にあって、ただ全国との比較のために17のゴールもやったら、じゃないかっていうことで17のゴールのモニタリングを追加したところがあります。栩野委員おっしゃったような形で相対的な視点で見せるという形で出てきた方が、わかりやすく、向かう方向がわかりやすいし意味もあるのかなと感じている所です。

【北橋委員】

資料の30ページのゴール13 気候変動対策のところでは、何で2番目に可住地面積が入ってきているんですたっけ。ひょっとしたら何か風が吹けば桶屋が儲かるみたいな話が読み取れないだけかもしれないんですけど。すいません、去年も見てたかもしれんが。

何となく検索すると、例えば大阪府でおんなじ数値がゴール11の住み続けられるまちづくりに入

ったりするんで、そして何かずれがあったのか、多分全体には影響しないとは思いますが。

可住地面積当たりなので例えばですけど、長野県とかね、森林の多いところなら、その可住面積が少ないところは、人が住む平地なんか少ないんだからそんな森ばかりその少ない平地では作ってられないよと言ったら、数字が悪いことになっちゃうんですけど、でもそうじゃないよなど。子育てしやすいまちとか言われると、そうそうってなるんですけど、気候変動対策としてみんなで頑張っ対策っていうところではない気がします。

【小野委員】

すいません、同じところでは入れたんですけど、可住地面積1人当たりの公園面積率が、例えば都市公園である都市基幹公園みたいなものであるのであれば、住み続けられるとして、いわゆる近隣公園・地区公園までのやつはそうですし、総合公園とかを含むものであれば、また、ちょっと違うるので。あともう1つ、大気の浄化性能もありますし、あと都市部はどうしても舗装率が高くなりますのでその中での浸透域を保つという意味では、限られた浸透源とゲリラ豪雨に対して一時的な表面水が急激に増えるっていうのを抑制する効果はもちろんあります。ただ、これが公園なのかっていう議論はあります。

例えば、これに関して言うと、県土に占める森林比率とか、自然的土地利用率の方がいいかもしれないけど、農地も入ってますので、それが県土なのか、県民1人当たり自然的土地利用比率が分からないですけど、そういうのがあるといいかなと。

今、国家戦略特区とか再開発で容積率割り増しでもらえる東京の開発とかですと、Co2吸着量とかそういった地球環境対策、気候変動に対するミティゲーションの機能っていうのは、プラス評価をされたり、あと、カーボンニュートラルっていうことで省エネと、Co2使用と吸着というのが入ってくるので、そうした緑化の創出みたいなこと含めてこれに入れるのであれば、例えば、ここにあるナンバー4を含めて、大規模開発、一定規模以上の開発には緑化規定を入れていただく、例えば500平米以上の開発では5%の緑地を敷地内に設けてくださいみたいな規定を持っている自治体数とかそういうのもあるかなと思うんですけども、この気候変動の対応策だと開発規制持ってるかとか、例えば、自治体のミニアセスを持っているとか、沖縄県下では、国の環境アセスメントしかないですけども、ミニアセスを持っていたりとか、リゾート開発でホテルとかが立地するとき、やっぱりそのホテルは周辺環境だけに注目する形になりますので、開発にあたって緑化をしっかりと入れてくとか、環境調査するだけじゃなくて、例えば省エネルギー化してくださいとかっていうのをしっかりと入れてくとかっていう政策を、答そういったものが取り組めてるかどうかっていうのは、今後の課題かなと思います。

【北橋委員】

優先課題に持続可能な観光っていうのがありますけど。割と大きな話をして話になってるので。

先ほど私が最初の方で持続可能な観光の話触れましたけど、もう少し具体的な沖縄の観光に絡んだ、数値っていうのが拾えるとより良いのかなと。

【小野委員】

もちろん公共交通でいけるというのも1つの指標ですけども、緑地を守る意味では、絶対に入らないっていう土地の他に、利用しながら守る緑地のところに開発を受け入れるならば、ちょっとその民間企業が果たすべき環境貢献についてはしっかりと評価してくようなものが必要かなと。

【新垣室長】

ありがとうございます。今後の指標の検討に参考にさせていただきたいと思います。

【石垣委員】

今後、3月ごろに出されるモニタリング報告書について今、皆で検討してるわけですが、私は個人的な意見としては概ねこれでいいんじゃないかなと思っております。

ただ、前の方の質問のような形でちょっと違和感が残ってるものがありまして、これについては3月にはこれには間に合わなくてもいいから、今後で検討していただければいいかなということだけで意見を述べます。60ページにですね、アクションプランとの絡みで優先課題の10の2番目になりますが、地域の伝統行事や文化に若い世代が参加するということを踏まえますね。ですから、60ページの下から2行目、引き続き、次世代に地域の伝統行事や文化が継承されるよう取り組むというふうになってると思います。

ですが、ローカル指標の2番目の、県の支援と伝統芸能の関係団体が実施したイベント（公演等）とありますよね。この参加者数というのは、プレーをした人間だけじゃなくて多分、参加者もカウントされてるんじゃないかなと思うんですが、その理解でよろしいですか。

この次世代に地域の伝統行事や文化が継承されるというのを、県が支援者と関係団体の様子見にきた人の数としてよいのかなと思ひ、違和感が生じたんです。

ですから、これからの検討ということで、検討いただけたらいいんですが、地域の伝統行事に、先週でしたかね、総合福祉センターの社会教育の研究大会がありました。私の出身は八重山の石垣島ですが、そこでは地域の伝統行事として豊年祭とかで、小学生たちが太鼓打ったりとかいろいろあるんですね。この数は、県の支援した関係団体のイベントに参加した人数に含まれないんですよ。だから、地域の伝統行事や文化に若い世代が参加すると言ってるならば、こういう、それぞれの地域で子どもたちがどう関わっているかということ、どっかで見る必要があるんじゃないかなということ、ちょっと違和感があつたわけです。

これはですね社会教育の研究大会でと言つたのはそこで、報告があつたわけですよ。自分たちの地域には、子どもたちがこのように関わる行事がある、という報告がなされていたんですね。

これについてですね、沖縄県教育委員会の方では、各市町村の教育委員会を通じて、伝統行事に子どもたちがどう関わってるかという資料があるんです。

なのでここでいう地域の伝統行事や、若い世代がどういうふうに参加しているかを研究していけばいいかなというような、単なる意見です。今後の検討でお願いします。

【新垣室長】

ありがとうございます。

指標が目標の実態に近づくような指標を今後も検討していきたいと思ひます。

【小野委員】

ちょっと私も同じところが気になっていて、もし市町村に問い合わせをすることができたら、多分これの場合は、地域でのエイサーとか、旗頭とか、ああいったものが地域の伝統じゃないかなという感じはしているので、それがもしかしたら自治会加入率とか自治会組織、都市部だと那覇市とかだと自治会空白地区もあるので、そういうところ、調整区域とかそういうところや離島も含めて字ごと、集落ごとに、全然違うことやってるところがあると思うので、それはぜひ沖縄の中ではすごく重要な自分の住むところっていうのがすごく特徴的なものなので、何か数える方法を何か検討いただ

けたらっていうこととあと、もう1つ、ゴール1か2のどっちかだったと思うんですけど、子ども食堂の実施率みたいなのは、地域でヒアリングをしているとともに、浦添市の児童センターなんかを例えば回っていると、コロナを契機に子ども食堂を始めて、利用が増え、何か沖縄県は結構子ども食堂はすごく盛んだと思うんですけど、供給数、提供数とかも出てきているので、提供食数とかを、各人口当たりで当たり割ってあげると、例えば公営住宅も見つけたのであとでプラスしますけど、公営住宅とかちょっと箱物は後ろだけれども、提供数は人口比にすると多分結構あるのかなっていう感じでは、しているので、という意見です。

【新垣室長】

ありがとうございます。いろいろ確認してローカル指標としてできるかどうか検討していきたいと思います。

【首里のすけ委員】

僕が皆さんから勉強させていただいておまして、こんなにいろいろ工夫して数字出してるなあっていうところで勉強になりまして、僕の立場上ですねやっぱSDGsの特番とかに呼んでいただいたりした際に、じゃあ県民一人一人テレビ使って呼びかけましょう、という時にじゃあ電気をこまめに消しましょうとか、専門業者さんの紹介だったりみたいな、だいたいそんな番組の構成になることが多くて、そんな時に何か簡単にできることを1つ2つぐらい、たとえば紙を使わないでおきましょうとか、プラスチック製品は使わないでおきましょうとかあるので、今日みたいな、いっぱい資料あるときは紙がもちろんいいですし、僕もいっぱい紙を使うんですけど、こういう場所ではパフォーマンスでも、紙は使えませんっていう感じで、やるのは1つなのかなという。

なんか、誰か突っ込みがいたら、いやお前も紙使ってるんかい、とか言われてもしょうがないなっていう感じがしたので、なんかそこがシンプルな、一番普通の県民に近い僕からの意見でした。

【新垣室長】

ペーパーレスペーパーですね。ありがとうございます。

オンラインの方もよろしいでしょうか。そろそろ

【北橋委員】

個別の内容でなく、県内でのSDGsニーズというかっていう、総論としての浸透率みたいなものってのはどっかで測られていますか。

【新垣室長】

県民意識調査の中で、調査しておまして、今年度も実施していますが、まだ公開はされていません。3年に1度の調査けれども、前回、令和3年度に行っている調査では、69.5%の方がSDGsについて知っているという回答しています。

【北橋委員】

個別の中身は毎年やって、その以外は3年に1度ということですね。ありがとうございました。

【新垣室長】

はい、よろしいでしょうか。

本日の議事は終了しましたので、事務局にて進行お願いいたします。

【事務局】

皆様、活発なご意見、ご議論をいただきありがとうございました。

会議時間も限られておりましたので、追加のご意見がありましたら、事前に意見照会させていただいた様式にご記載のうえ、会議終了後2月10日を目途に事務局あてにご送付ください。

本日の会議につきましては、事務局にて議事概要を委員の皆さんにご確認いただいたのち、会議資料とともに県HPへ掲載いたします。

以上をもちまして、令和6年第1回SDGs専門部会を終了いたします。皆様ご参加ありがとうございました。